



▲神籠石の特徴「列石」

昭和37年に発見された謎の遺跡「神籠石」。昭和38年武雄で神籠石初の発掘調査が行われ、7世紀頃に国家事業で大陸からの侵攻に備えて築かれた城であることがわかりました。調査の結果、昭和41年に「おつぼ山神籠石」として国の史跡に指定されました。武雄市では、国史跡おつぼ山神籠石の価値を高め、後世に残していくために本年度から保存整備工事を開始します。そこで市報では2カ月に渡り、この史跡についてご紹介します。

保存整備工事が  
始まります。

遺跡の広さは  
東京ドーム  
約5.5個分!?



発掘調査の様子▶

どうやって造ったのか？  
古代の山城は朝鮮半島の技術で造られていることがわかっています。おつぼ山の列石の推定ラインは約2キロ。機械もない時代にこれだけの石をどうやって運んだのか？どんな道具を使って石を四角に加工したのかは謎です。

おつぼ山の謎 その式



ミカン園造成中に偶然見つかった!?

◀第一水門の排水口



アクセス  
マップ

謎が多いからこそ私たちに夢とロマンを与えてくれるおつぼ山神籠石。謎を解くのはあなたかも!?知っていた人も知らなかった人もこの機会に史跡探訪に出かけてみませんか？

※8月号では保存整備工事の内容についてご紹介します。ぜひご覧ください。

近代考古学における重要な史跡。でも謎はすべて解けていない。  
おつぼ山では現在の発掘調査に通じる手法で調査が行われ、神籠石の性格・時期などを導きました。おつぼ山で発見されているのは門・水門・土塁などの一部の施設のみ。他に施設はないのか？  
本当に完成された城だったのか？  
いまだに多くの謎に包まれています。

おつぼ山の謎 その参

# 謎多き「おつぼ山神籠石」